

鹿児島県で発生したクスベニヒラタカスミカメによるクスノキの被害

誌名	鹿児島県森林技術総合センター研究報告 = Bulletin of the Kagoshima Prefectural Forestry Technology Center
ISSN	1883017X
著者名	川口,エリ子 米森,正悟 間世田,明里 松永,禎史
発行元	鹿児島県森林技術総合センター
巻/号	23号
巻号補足	
掲載ページ	p. 31-33
発行年月	2022年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



短報

鹿児島県で発生したクスベニヒラタカスミカメによるクスノキの被害*1

川口エリ子*2・米森正悟*2・間世田明里*3・松永禎史*4

はじめに

クスベニヒラタカスミカメ (*Mansoniella cinnamomi*) は、中国原産のクスノキの害虫で、2015 年に大阪府で被害が確認されて以降、日本国内で急速に分布が拡大している (岡本 2020)。九州でも被害がみられ、隣県の熊本県でも被害が確認されていた (伊藤 2020, 園田 2020)。クスベニヒラタカスミカメに吸汁されたクスノキの葉は、特徴的な褐色の斑紋が現れ、落葉する。鹿児島県では日本一の巨樹で知られる「蒲生の大クス」をはじめ、主要な公園や街路、施設周辺に多くのクスノキが植栽され、人々に馴染みのある景観を彩っているクスノキも多いことから、クスベニヒラタカスミカメの侵入が警戒されていた。

そのような中、2021 年 9 月に、著者の一人、樹木医の間世田が鹿児島市内のクスノキで落葉被害および斑紋、クスベニヒラタカスミカメの虫体を確認した。そこで、県内での分布状況を把握するため、県内各地の街路樹、神社や公園等に植栽されているクスノキを観察し、クスベニヒラタカスミカメの虫体や葉の斑紋の有無などを調査したので報告する。

調査地と調査方法

調査は、2021 年 10 月～12 月に、県内 25 箇所の街路、公園、神社等に植栽されているクスノキを対象として行った (表 1)。目視または双眼鏡で斑紋の有無を確認し、斑紋が確認された場合は、捕虫網での捕獲を試みた。捕獲されたクスベニヒラタカスミカメは、幼虫、成虫を区別

して記録した。また、落葉の程度、その他の異常等を記録した。

結果と考察

今回調査した 25 箇所のうち、5 箇所で斑紋が、7 箇所で斑紋と虫体の両方が確認された (表 1, 図 1, 写真 1C,D)。斑紋や虫体を確認されたのは、鹿児島市、始良市、出水市、長島町、志布志市であった。これらの結果から、本県でもすでに広い範囲でクスベニヒラタカスミカメが分布していることが明らかとなった。また、虫体は、成虫および幼虫が確認された。被害は、被害葉がごく稀で軽度なものから、葉がほとんど落ち、残された葉の多くが被害を受けている激害のもの (写真 1A,B) もあった。落葉被害の程度は、隣接するクスノキでも一様ではなく、激害のクスノキの隣は軽度の被害となっていることもあった。また、捕虫網を振ると被害葉が多数落ちてくるクスノキがある一方、虫体が多く捕獲されたクスノキでも落葉量が少ないクスノキもあった。このような落葉の程度に違いがある現象は、これまでも知られている (岡本 2020)。なお、10 月に被害を確認して以降、鹿児島市の鹿児島大学周辺や県庁周辺、始良市の国道 10 号線沿いクスノキでは、その後も折に触れて経過を確認したが、見る度に落葉が進んでいた。

これまでの他府県での報告によると、クスベニヒラタカスミカメの被害で枯死することは知られていないが (長島ら 2016, 岡本 2020)、今回見られた激しく落葉しているクスノキは、枯死が懸念されるほどの状態であった。近畿地方では、クスベニヒラタカスミカメの被害は、以前ほど

*1 Kawaguchi, E. Yonemori, S. Maseda, M. Matsunaga, T. : Damage on *Cinnamomum camphora* by *Mansoniella cinnamomi* in Kagoshima prefecture

*2 鹿児島県森林技術総合センター森林環境部

*2 Kagoshima Pref. Forestry Technology Center. Forestry and Environment div., Aira 899-5302 Japan.

*3 一般社団法人 日本樹木医会 鹿児島県支部

*3 Japan Tree Doctors Association. Kagoshima branch.

*4 サンケイ化学株式会社

*4 Sankei Chemical CO., LTD.

表 1. 調査地および調査結果

調査地No.	調査日	市町村	施設等	斑紋	虫体	備考
1	2021/10/1	鹿児島市武	街路樹	有	有（成虫・幼虫）	激しい落葉木あり
2	2021/10/1	鹿児島市郡元	街路樹	有	有（成虫・幼虫）	鹿児島大学より情報提供。落葉あり
3	2021/10/1	鹿児島市東谷山	公園	有	有（成虫・幼虫）	落葉あり
4	2021/10/5	志布志市	神社	有	なし	微害
5	2021/10/6	始良市蒲生町	神社	なし	なし	蒲生のダクス
6	2021/10/6	始良市	街路樹	有	有（幼虫）	激しい落葉木で炭疽病、クスダアザミウマ多数。
7	2021/10/7	鹿児島市	県庁周辺	有	有（幼虫）	微害。虫体確認木で炭疽病確認
8	2021/10/8	阿久根市	神社	なし	-	
9	2021/10/8	長島町	神社	なし	-	
10	2021/10/8	長島町	神社	なし	-	炭疽病症状あり
11	2021/10/8	長島町	神社	有	有（成虫・幼虫）	虫体多いが、落葉わずか
12	2021/10/8	出水市	神社	有	有（成虫）	落葉あり
13	2021/10/8	出水市	神社	有	なし	微害
14	2021/10/19	鹿児島市	街路樹	有	なし	落葉あり
15	2021/11/13	始良市	街路樹	有	-	落葉あり
16	2021/11/13	始良市	街路樹	有	-	落葉あり
17	2021/11/13	始良市	公園	なし	-	
18	2021/11/16	錦江町	街路樹	なし	-	炭疽病による衰弱木あり
19	2021/11/22	南さつま市	神社	なし	-	
20	2021/12/6	指宿市	神社	なし	-	
21	2021/12/6	指宿市	巨樹	なし	-	
22	2021/12/6	指宿市	街路樹	なし	-	
23	2021/12/6	指宿市	神社	なし	-	
24	2021/12/6	南九州市	施設	なし	-	
25	2021/12/21	南さつま市	神社	なし	-	

No. 15, 16では、斑紋を確認したが捕虫は実施していない。

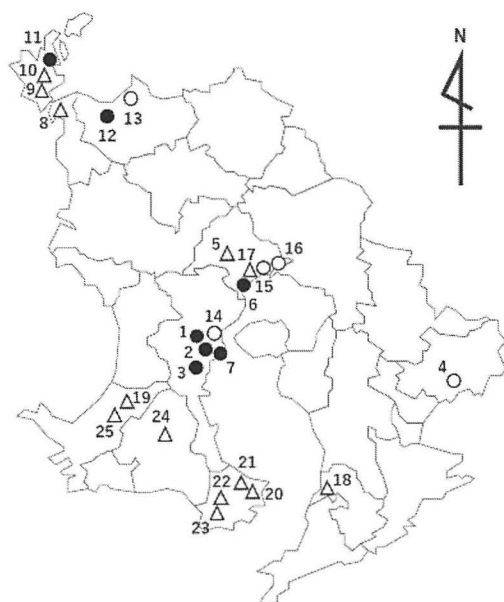


図 1. クスベニヒラタカスミカメによる斑紋および虫体の確認状況

図中の番号は、表 1 の調査地 No.を示す。●：虫体および斑紋あり，○：斑紋あり，△調査したが確認されず

目立たなくなったとの報告もあり（岡本 2020），今後は、長期的に被害木の経過や、県内での分布の推移を継続調査していきたい。なお、今回の調査で、激しい落葉がみられるクスノキでは、クスベニヒラタカスミカメによる斑紋のほか、クスノキ炭疽病の症状や炭疽病の媒介者であるクスダアザミウマがみられることがあった（表 1）。激しい落葉がみられる場合は、クスベニヒラタカスミカメの単独の影響なのか、炭疽病との二重被害なのかについても留意して調査する必要があると思われる。

謝辞

鹿児島大学の坂巻孝准教授および鹿児島市公園緑化課には貴重な情報を提供いただいた。記して感謝の意を表する。

引用文献

伊藤 研（2020）クスベニヒラタカスミカメの大分県内での分布状況．二豊のむし 58：21-23．

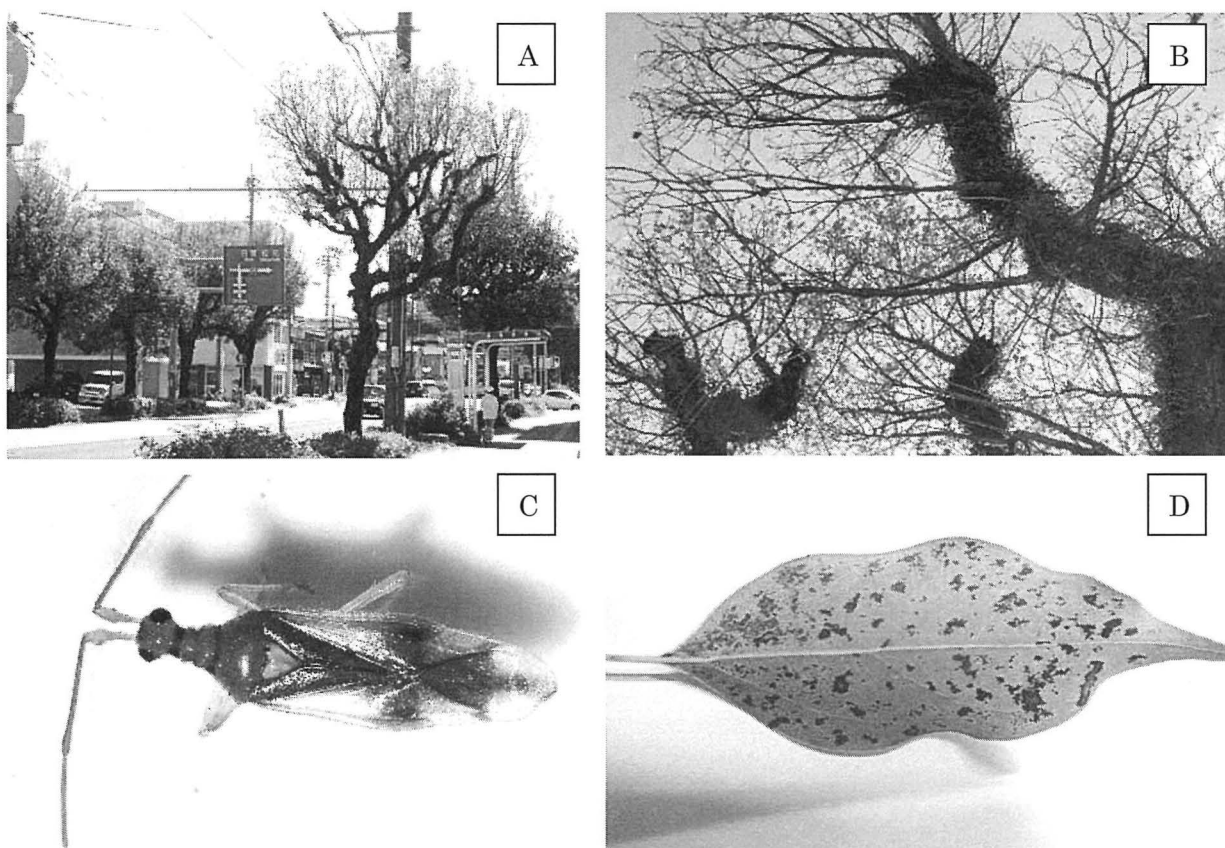


写真 1. クスベニヒラタカスミカメおよび被害状況

A：鹿児島市武でみられた被害木。中心に写る 1 本は特に落葉が激しい。B：激しい落葉により空が透けて見える樹冠。

C：捕獲されたクスベニヒラタカスミカメ成虫（体長 5 mm 程度）。D：吸汁によって現れた特徴的な斑紋。

長島聖大・岩崎 拓・山田量崇（2016）2015 年に日本へ
侵入したクスベニヒラタカスミカメ *Mansoniella*
cinnamomi の分布拡大状況. 昆虫と自然 51(14):26-29.
岡本素治（2020）クスベニヒラタカスミカメの生活史と被

害の現状. グリーン・エージ 556：16-20.
園田美和（2020）森林病虫害情報. くまもと林研センター
だより 86. p14.